

編輯室から

◆この三四年來、紙代、印刷費等が著しく騰貴しました爲に、大谷學會は昭和十三年以來、毎年二百圓乃至三百數十圓の赤字を出して來ましたが、本年は赤字が一層増大する筈で、このまゝでは到底やつて行く事が出来なくなりました。然し、さうだからと云つて「學報」の頁數を無暗に減らしては、研究が萎縮し、やがては大學存立の意義にも關係する事になります。

◆一方、本年の夏から「日本出版文化協會」が出来て、國內のあらゆる出版物の紙の配給、價格の統制等を行ふ事になりました。從來、大谷學會の會費は、年額參圓と決つて居りましたけれども、學生會員は貳圓だけ納付すればよい事になつて居りましたが價格統制上、かういふ事は容認されにくくなりまして、止むを得ず規定通り年額金參圓を納付してもらふ事に致しました。

◆然し學生會員の會費を規定通りにしただけでは、なほ赤字の補填は困難であります加之、研究を振興する爲に、學報の發行回數を増加し、更に學報の外に、もう一つ研

究發表の機關を設けるやうに、といふ事が會員の間から強く要求せられて居りました其度々委員會を開いて相談をし、學校當局とも懇談をしました結果、學校から毎年相當多額の補助金をもらふ事にして「大谷學報」は年に六回發行する事、「學報」の外に「大谷大學研究年報」を毎年一冊づゝ刊行する事、また毎年秋季に大谷學會の大會を開いて、各研究室から代表者を出して研究發表をしてもらふ事に致しました。(去る十三日に開催しました大會は、その第一回の試みでありました。)

◆さて「學報」は來年度以後も、從來通り本學の全教職員、學生に購讀していただくます。「大谷大學研究年報」も同様にお願ひしたいのでありますが、相談の結果、本學の専任教職員、研究科、學部の學生に購讀してもらふ事にし、其の他は希望の方にだけ購讀していただく事にしました。

◆それで、大谷學會の會員を甲乙二種に分ち、

甲「學報」と「年報」を頒布。會費五圓。

乙「學報」だけを頒布。會費參圓。

といふ事にし、甲會員の會費は四月(但し

一五〇

教職員は正月)と九月に分けて納付、乙會員は四月(教職員は正月)に納付、學外會員は前納していただく事に致しました。御諒承を願ひます。

◆「大谷大學研究年報」第一輯は目下印刷中で、今年末に發行の豫定ですが、今年は會費をいたゞいて居りませんから、希望の方だけ隨意御購讀を願ひます。

◆「學報」に執筆せられる各位に申し上げます、目下用紙が著しく制限せられて參りましたので、學報の紙面も出来る限り節約しなければならぬ必要に迫られて居ります。

其で止むを得ず來年度からは、論文の殆ど全部を二段組に致します。この點患しからず御承知おき願ひます。

大谷大學研究年報 第一輯内容

宗教の受動性 鈴木 大拙

教行信證研究序説 稻葉 秀賢

―特にその構造について―

半島出身高仙芝の事蹟に就て

諏訪 義讓

人口の社會形態學的作用と

都鄙教團 福井 元澄

古禪道と淨土眞宗 徳重 淺吉